

# 主 論 文 要 旨

No.1

報告番号	甲 第	号	氏 名	能登 康之介
主 論 文 題 目： 医療用医薬品の流通価格と取引慣行に関する研究 -ミクロパネルデータを用いた実証分析と政策シミュレーション-				
(内容の要旨)				
<p>医療用医薬品の流通過程には、製薬企業が卸企業に支払うリベートやアローアンス、卸企業と医療機関の取引における総価取引や未妥結仮納入取引といった取引慣行が存在する。これらの取引慣行は薬価基準制度の信頼性を損なうとして問題視され、改善（縮小ないし解消）のための政策的取り組みが行われてきた。ただし、その形成メカニズム等を考慮すると、各取引慣行は流通価格を通して薬価に影響を与えていると考えられる。その時、取引慣行を政策的に改善することは、流通市場に意図しない影響を与える可能性がある。</p> <p>本博士論文では、取引慣行の存在する医療薬品流通取引のモデル化と実取引データを用いた実証分析を通して、薬価基準制度下の医薬品流通取引において各取引慣行がどのような役割を持ち、流通価格や薬価にどのような影響を与えているかを検証した。また、実証分析の結果を踏まえたシミュレーションにより、取引慣行の改善政策が薬価や各流通主体（製薬企業、卸企業、医療機関）の利益構造に与える影響を定量的に把握した。</p> <p>実証分析の結果からは、先発医薬品において、製薬企業が支払うリベートは流通価格を高くすることで、薬価を高止まりさせるような役割を持っていることが明らかになった。また、シミュレーションの結果からは、川上取引のリベートとアローアンス、川下取引の総価取引や未妥結仮納入取引をそれぞれ単独で改善させると、薬価や流通主体の利益構造を現行の水準から大きく変化させてしまうが、川上と川下の取引慣行を同じタイミング、同じレベルで改善することで、その影響を小さくできることが示された。</p> <p>分析結果を踏まえると、川上と川下の取引慣行は薬価基準制度下の流通市場において、一つのシステムとして制度的補完性を持って存在しており、外的環境の変化に対して一定の頑健性を持っていると考えられる。本稿では、分析結果を踏まえて、取引慣行を改善するための政策パッケージとして5つの制度改革案を提案している。</p> <p>キーワード：薬価基準制度、取引慣行、パネルデータ、システム GMM、政策シミュレーション。</p>				

主 論 文 要 旨

No.1